



2026 春夏号
酒井ワイナリー瓦版

葡萄と共にこれからも

鳥上坂

創業明治 五十五年 五代目便り

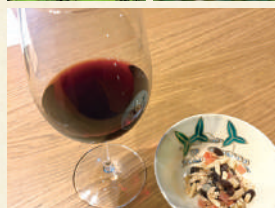
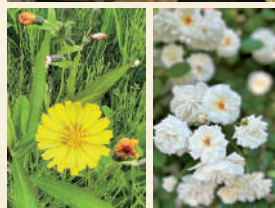


今は新緑の季節、ニセアカシアの花咲き匂い立つ時期は過ぎて、野バラに加えて庭先、畑の中に植えたバラ達が咲き誇っています。様々な色彩と香りのなかで黙々と進めるのは、3年前から少しずつ行っているブドウ棚の修理。新しいスタッフにより飛躍的に作業は進み、ようやく元の姿を偲べるくらいに戻ってきました。修復は雪が溶けたあとでないと行えず、春を待ちわびては棚を復元し、ほかのさまざまなブドウ畑作業が立て込んできては泣く泣く途中で諦め翌年にまわしてきました。そんな状態が3年。冬の間に修復部分のことが気になりやきもき。今年の春は久しぶりに晴れやかな気分で過ごしています。まだまだ修復箇所は多いけれども。

かたや春を迎えると必ずと言っていいほど起こる出来事があります。それが離農問題です。畑作業が始まる時期にケガや病気などで健康に不安があったり、大雪の影響で壊れたブドウ棚の補修ができないなどの理由で耕作を諦める高齢の農家さんが必ずと言っていいほどおり、今年も2か所のブドウ畑を買い取って耕作することとなりました。我が家のブドウ棚補修の件もあり手が足りないことは重々承知の上でしたが、赤湯をブドウ・ワイン産地として残すためには、目の前の畑が無くなることをみすみす見逃すわけにもいかず、二つ返事で引き受けてしまいました。大変なことは想像できる一方、初めての畑はどんなブドウが実るのか、人間の事情などは露知らず目にもまぶしい新緑の葉を伸ばす姿を見るにつけ、今から楽しみでもあります。

新緑を待ちわびているのは人間だけではなく、羊や熊などの動物たちもそう。干し草に飽きた羊たちは放牧されることを今か今かと鳴き続けています。熊は去年よりも早く人里に姿を現し、クマ鈴やラジオが農作業には欠かせません。全国各地で熊害が起こっているなど今年も何かと騒がしい「熊年」になりそうです。

そんな本年、個人的に待ちわびていることがあります。中学生のころから私淑している映画監督の押井守の新作が11月公開を予定していることです。思い返せば、思春期の自分は多大な影響を受け、その後物事を考える、物を作ることへ意識的に無意識的要素を組み込もうとするようになりました。氏の言葉の中で強く印象に残ったものの一つに「映画は語られることでしか成立しない」というものがあります。



ある本から押井守の言葉を引用すると、「—いや、より正確に言うなら『映画を見ること』は『見た映画について語ること』によってしか成就しない、『映画は語られることによってしか存在し得ない』のだとして、しかし振り返ってみればその『語られた映画』と『見られた映画』は、実は依然として全く別に存在するものなのだ、という不可思議さこそが『映画を見る』という行為の真相なのです。(中略)思い起こした時間の先にある映画、思い起こされた映画は、実は思い起こすという行為がそうであるように、常に現在ただいまの映画としてしか存在し得ないのではないか。」と、クリス・マルケルの映画「ラ・ジュテ」の冒頭の一節である「思い出を記憶とわかつものはなにもない」を引き合いに出して言及しています。

誰かと一緒に一本のボトルのワインを飲むとき、果たして同じワインを飲んだといえるのかどうか、遺伝子的にも香りや味の感じ方はひとそれぞれ。体調やその時の気分も味わいの感じ方に影響を及ぼします。確かめようのない出来事です。それでもそのワインについて語り合うとき、確かに同じワインを飲んだと言えるのではないのでしょうか。同じ故郷の思い出を語らうように。その場合必要なものは何か。

あるワインのその出自を全く知らないでただ飲んだ時の記憶と、そのワインにまつわる思い出(畑の雑草を踏んだ感触、風の匂い、日の強さ、造り手の顔などなど)がある時では全く違うものになることは多くの人が経験したものだと思います。

美味しいワイン、その土地のワインをお客様に届けるということは、お客様自身が語り部となりワインの完成を促せるよう、造り手が多いうことを語れるようにならなければいけないのだと日々言い聞かせ、ワインやブドウの周辺の小さい生き物たちへ耳を傾ける毎日です。



SAKAI WINE
since 1892



有限会社 酒井ワイナリー 〒999-2211 山形県南陽市赤湯980
TEL.0238(43)2043 FAX.0238(40)3184

Campaign 送料のお知らせ

1配送につき15,000円(税込)以上
お買い上げで**通常送料無料**

【クール便の別途料金】※税込
3本まで220円、4〜12本は660円
【代金引換の別途料金】
ヤマト便代金引換手数料300円

全ての配送でクール便別途頂戴いたします
(夏季はジュース・甘口以外 全てクール便での発送となります)



Event イベント告知

「青葡萄の宴」

あおぶどう

2026年 9月19日(土)・20日(日)
2days

出来立て2026年産&蔵出しワインを特別販売!
またとない機会にぜひお越しください!

News お知らせ

「やまどりの会」募集

鳥上坂応援サポーター「やまどりの会」を
今年も募集させていただきます。
お力添えよろしくお願いたします!

詳細は、別紙ご案内
またはSNSをご覧ください。

New!

社員のつれづれ。



社員のコーナーが新設となり、第一号になりました星野です(旧姓で仕事しています)。いつも事務所とお店を担当しています。原稿なんて書いたこともなく、どうしようとずっと考えていました。考えれば考えるほど迷路に入ったような感じになり。迷路といえば、最近親子遠足がありました。場所は上山市にある山形県民は皆行ったことがあるだろう遊園地「リナワールド」。その迷路「DOSAIDA?」(山形弁で「どこにいる?」の意味「どさいだ?」)に夫と息子が挑戦しました。見事に迷い、途中へこたれたそうですが20分かけてゴールまで辿り着いた息子。達成感を味わったのでしょうか。私の元に帰ってきた時の顔はとても凛々しくみえました。なんて親バカなのでしょう。どうやら閉園した東京都「としまえん」の迷路が半分移設されたようでした。色々しかけがあるようなので、ぜひ山形へ来県の際は挑戦してみてはいかがでしょうか?原稿も間もなく書き終えようとしているのでホッとしています。締切間に合った!これから夏本番、家庭菜園から採れる夏野菜を食べて元気に乗り越えたいものです。早く食べっちなな。

嫁の おいしい山形生活。

毎回地元の美味しいものをご紹介しているこのコーナー。今回は初めての寿司です。前号では南陽市はラーメンのまちとご紹介しましたが、意外にも山形は寿司の消費も多いそうです。2025年の「家計調査」で、すし(外食)における支出額日本一は山形市だったそうです。ラーメンの消費額は毎年山形では大きなニュースとなりますが、同じく寿司も日本一だったのですね。

我が家もお祝い事や親戚が集まる際は必ず寿司を頼みます。そんなときよくお世話になっているのが、ここ「倉寿し」です。

赤湯駅から徒歩1分。様々な小鉢の付いたおすすめのランチ。写真



はレディースランチですが男性も頼めます。食後には寿司店では珍しくコーヒーとデザートも付いていますので、ゆったりと昼食を楽しみたい時にはぜひ。

倉寿し 山形県南陽市三間通128-7

11:00~13:30、17:30~21:00 定休 水曜日

https://www.instagram.com/kurazushi_akayu



小姫さん

「小姫さん」2025ヴィンテージが発売となりました。昨年の夏は、ご記憶の方も多いと思いますが、全国的に猛暑、少雨となりました。山形も例外ではなく、7月の最高気温として観測史上最高(米沢など)、また降水量は観測史上最少となりました。早熟のデラウェアは高温障害が懸念されましたが、収穫が例年より1週間ほど遅かったものの、地元の農家さんからは非常に良いぶどうを得ることができました。十分に熟した種有デラウェアです。

そんな猛暑を耐え抜いたデラウェアを、自然発酵、無補糖でぶどうそのものの旨味をそのままに醸したのが、この「小姫さん」です。白い花やリンゴなどの瑞々しい香り。味わいにも熟したリンゴ様の果実味があり、美しい酸味のバランスが良いです。キュッと冷やしてお楽しみください。

ひとつ ひとりごと

酒井ワイナリーには歴代の猫たちがいます。飼っていたものもいれば、通り過ぎていくだけのものもあります。今現在は3匹の飼い猫と、1匹のたまにやってくる猫、「おにぎり」とか「大将」とか呼ばれています。はたしてどこからやってきたのか。かつての猫たちもそうですが勝手にやってきては前触れもなくいなくなり、の繰り返し。ただ、みんなに共通するのは、事務室の入り口の窓に鼻息がかかるくらい近くで熱視線を送ってくる。でも触らせてはくれません。さすらい猫の矜持。そこもまた可愛いと思ってしまうのは猫好きの残念なところ。今日も「こんにちわ」も無くやってくると思います。ねぐらが決まっているのか、果たして荒野を旅する根無し草なのか分かりませんが、顔が見られるとホッとしていたりして。「おかえり」とか「いらっしやい」とか言ってくれる猫好きたちが、このワイナリーにはいるから、ルートに入れてくれているのかな?お店に来るお客様方も、酒井ワイナリーをルートに入れて、お出かけついでに顔を見せて下さっているのでしょうか。誠にありがたいことです。いま店先には、バラの花が良い香りを漂わせています。鬱蒼とする夏の前にぜひ楽しんでいただけたらと思います。圧の強い猫たちもいるかな、いないかな?

